

5 カリキュラム・マネジメントの視点からの「情報活用能力」の育成

(1) 教科等横断的な視点での教育内容の組立・配置

こんな実践

学校全体の各教科・学年における情報活用能力育成のためのカリキュラムを作成し全校体制で活用した実践です。

今まで学んだ情報活用能力（総合的な学習の時間での「それぞれのメディアの長所・短所の理解と活用」や技術・家庭科での「目的に応じたメディアの複合と工夫し創造した情報発信」）を活用した3学年での国語の実践です。

実践学校 Y中学校

○ 各教科・学年における情報活用能力を育成する活動を抽出し整理。

2 学年		4月	5月	6月	7月	8月	9月
国語	光村	国語(範読・デジタル教科書による資料提示)【C-9-2年①】		多様な視点から		国語(筆づかい)【B-7-2年①】	国語(筆づかい)【B-7-2年①】
社会	東書	社会(全単元で語句調べ・インターネットを使った調査学習・学習カードの共有化・e-ライブラリーでのドリル学習・電子黒板の使用)【B-6-2年①】			社会(社会科新聞 情報収集・まとめ)【B-6-2年①】	社会(発電所のメリット・デメリットの意見共有)【B-7-2年①】	
数学	啓林館			連立方程式の利用			一次関数の利用
理科	東書	理科(植物や動物の仲間分けでインターネットを使った調査学習)【B-6-2年①】		動物の仲間分けについて調べる			
		化学変化についてモデルの利用					



各教科・学年ごと抽出したものを、情報活用能力育成のための年間カリキュラムに整理。ICTを活用しながら、徐々に情報活用能力が高まっていくように指導内容を検討し、学校全体としてのカリキュラムを作成。

学年	年間・情報活用能力育成のためのカリキュラム計画	
	4月から7月	8月から12月
3年	総合的な学習の時間 (A情報リテラシー) 英語(弁論) (A「収集」「判断」「処理」)	理科(地球と天体) (A「収集」「判断」) 数学(生活の中にある関数) (A「発信」「伝達」)
2年	総合的な学習の時間 (A情報リテラシー) 道徳 (C情報モラル)	美術(アニメーションつくり) (A「収集」「表現」「創造」) 音楽(作曲しよう) (A「表現」「創造」)

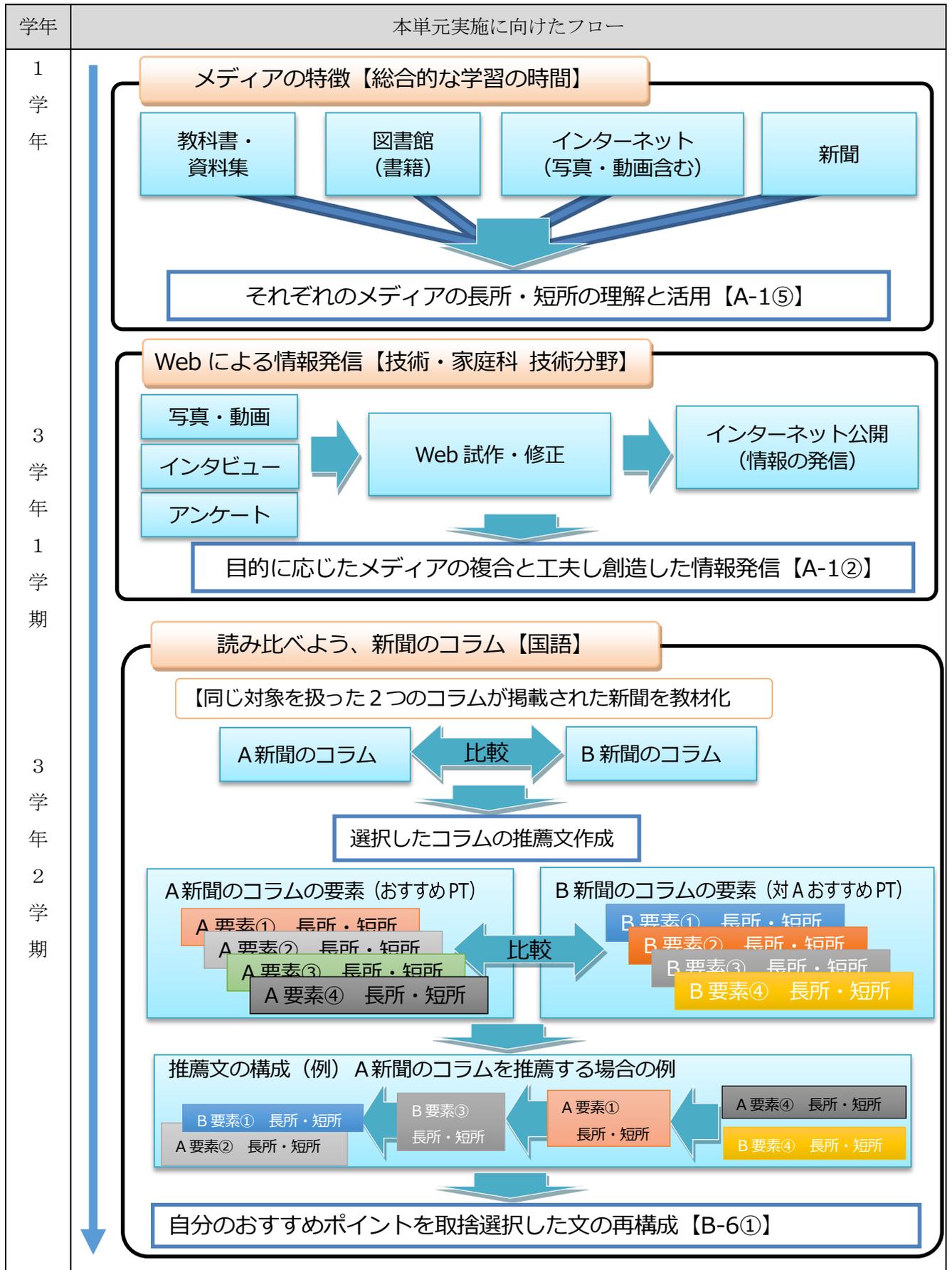
※【 】及び()内については、「育成を目指す情報活用能力の一覧表」を参照



ここがポイント!

- ・ ICTを活用したという内容を、「情報活用能力の育成」の視点にかえ、情報活用能力育成のための年間カリキュラムに整理し、さらに子供たちの発達段階に応じ再整理してみました。

○ 「単元実施に向けたフロー」を作成し、既習事項や各教科との関連を整理。



- ① 1 学年総合的な学習の時間では、「様々なメディアの特徴と利用方法」について学び、情報収集の方法を知り実践を行った。
- ② 3 学年一学期技術・家庭科 技術分野では、「Webによる情報発信」の場面で、目的に応じたメディアの複合と工夫し創造した情報発信について学び、情報収集後、Webの制作・発信を行った。
- ③ 3 学年二学期国語では、「新聞のコラムの読み比べ」の場面で、タブレット端末を活用し、共通点や相違点を見だし、自分のおすすめポイントを取捨選択した文の再構成を行った。

○ 授業事例

(1) 単元指導案

教科・科目	国語	学年	第3学年
教科書名	光村図書		
単元名	読み比べよう，新聞のコラム		
単元の指導目標 (教科について)	① A社とB社，2つのコラムを比較しながら200字以上の推薦文を書いている。 ② 書いた推薦文の推薦理由について説明している。		
単元の評価規準 (教科について)	① 同じ対象を扱った2つのコラムを読み比べて，その相違点や共通点をとらえることができる。－Cア，ウ ② コラムが取り上げている対象の良さが，学級に伝わるように，コラムを比較しながらその良さを推薦文として書くことができる。－Bイ，エ		

この単元において 育成する 情報活用能力	(知識・技能)	同じ対象を取り上げた2つのコラムから，文章表現にある良さを共通点や相違点から見いだすことができる。
	(思考力・ 判断力・ 表現力等)	2つのコラムの中から，自分のおすすめポイントを視点にしながら，根拠をもち，取捨選択しながら文をつなぎ合わせて推薦文を組み立てようとしている。
	(学びに 向かう力・ 人間性等)	日常の中にある新聞というメディアでは，同じ対象を取り上げたコラムの中にも，異なる視点でとらえることで読み方が変化していく見方に気付く。
(参考)この単元における ICT活用のポイント	クラス全員の考えの傾向を見やすくして，自分の考えの視野を広げるためのICT活用	

時数	主な学習活動	情報活用能力育成の視点
1	同じ対象を扱った二種類の新聞コラムを読み比べ，構成や展開，表現の仕方，筆者の述べたいことなどの読みの観点を通して，共通点や相違点を捉える。	2つのコラムを読み比べ，それぞれのコラムの良さを共通点や相違点から見いだす。
2	自分の気に入ったコラムを選び，推薦文(200字から400字程度)を書き，交流する。	2つのコラムを読み比べ，根拠を明らかにしながら，友達におすすめするコラムを選択する。
3	交流した事柄を生かしてコラムの推薦文(400字程度)を書き，発表し合う。	クラス全員の互いの考えを見ながら，自分の選択したコラムが説得力をもって伝わるようになったか確認する。

(2) 学習指導案 (全3時間中 第1時)

○ 授業のねらい (主眼)

2つのコラムの相違点や共通点についてとらえた生徒が、付箋を用いて構成を考えながら推薦文を書いたり、書いた内容が伝わりやすいかを班内で意見交流したりすることを通して、文章の良さや特徴をとらえた推薦文の原稿が書ける。

○ 授業展開 (授業の流れ)

時	学習過程	学習活動	I C T機器の活用場面
10	導入	・タブレット学習ソフトで前時を振り返り、本時の流れを知る。	・タブレット学習ソフト ・タブレット端末 ・電子黒板
15	展開1	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">課題1：コラムのよさが伝わる推薦文を書こう。</div> ・推薦文を書く。	・タイマー掲示 ・タブレット端末のカメラ機能
15	展開2	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">課題2：書いた推薦文を紹介し合おう。</div> ・書いた推薦文を紹介し合う。班内で読み、自分の推薦文について説明する。 ・他班の推薦文を読む。	
10	終末	・学級内で交流する。 ・本時の振り返りをする。	・タブレット学習ソフト

○ 実際に使用した機器について (機器名・使い方・特徴)

教師用・・・タブレット端末 (ドッキングステーション付) タブレット学習ソフト
 教室提示用・・・電子黒板 Wi-Fi機能 ホワイトボード機能
 生徒用・・・タブレット端末 タブレット学習ソフト

授業を終えて (授業者より)

○電子データと紙ベースということに関して、議論の分かれるところ。国語科でも他教科でも、書くことは大切である。紙ベースに書くことでわかることもあるし、電子データとして書けば、記憶が記録として残り、再利用がしやすい利点がある。

○ICTの活用に関して、3年生一人一人に与えられたタブレット端末を活用することが何のためかと考えたとき、授業時間の効率化であった。効率よく授業を展開することで、生徒の思考を支えることができると考えた。

○PCやタブレット端末、電子黒板、こうした機器の活用方法についての知識、現有ソフトの内情など、ハード面・ソフト面に対する授業者のスキルアップも必要かつ急務であった。動かし方は、支援員の先生と一緒に操作することで手順や方法を知ることができた。



ここがポイント！

- ・ 3学年での国語の授業で、総合的な学習の時間や技術・家庭科で育んだ情報活用能力を活用した学習にしました。
- ・ 3年生一人一人に与えられたタブレット端末を活用することで、効率よく授業を展開し、生徒の思考を支えることができます。

まとめ

- ・ 各教科・学年ごとにICT活用や情報活用能力を育成する活動を抽出してみましよう。
- ・ 子供たちの発達段階に応じ、徐々に情報活用能力が高まっていくように指導内容を検討してみましよう。
- ・ 学校全体としての「情報活用能力育成のためのカリキュラム計画」を作成します。
- ・ 「単元実施に向けたフロー」を作成し、既習事項や各教科との関連を整理することで、情報活用能力を育成する視点での授業構想をおこない、生徒の思考の活性化を図ってみましよう。
- ・ 教科指導において、児童生徒が「情報活用能力」を高めていく場面を幅広くイメージし、その象徴的な単元や題材を抽出、整理してみましよう。
- ・ 「情報活用能力」を中心に置いて、学校教育目標達成に向けたカリキュラムとなるように修正・改善を繰り返していきましよう。